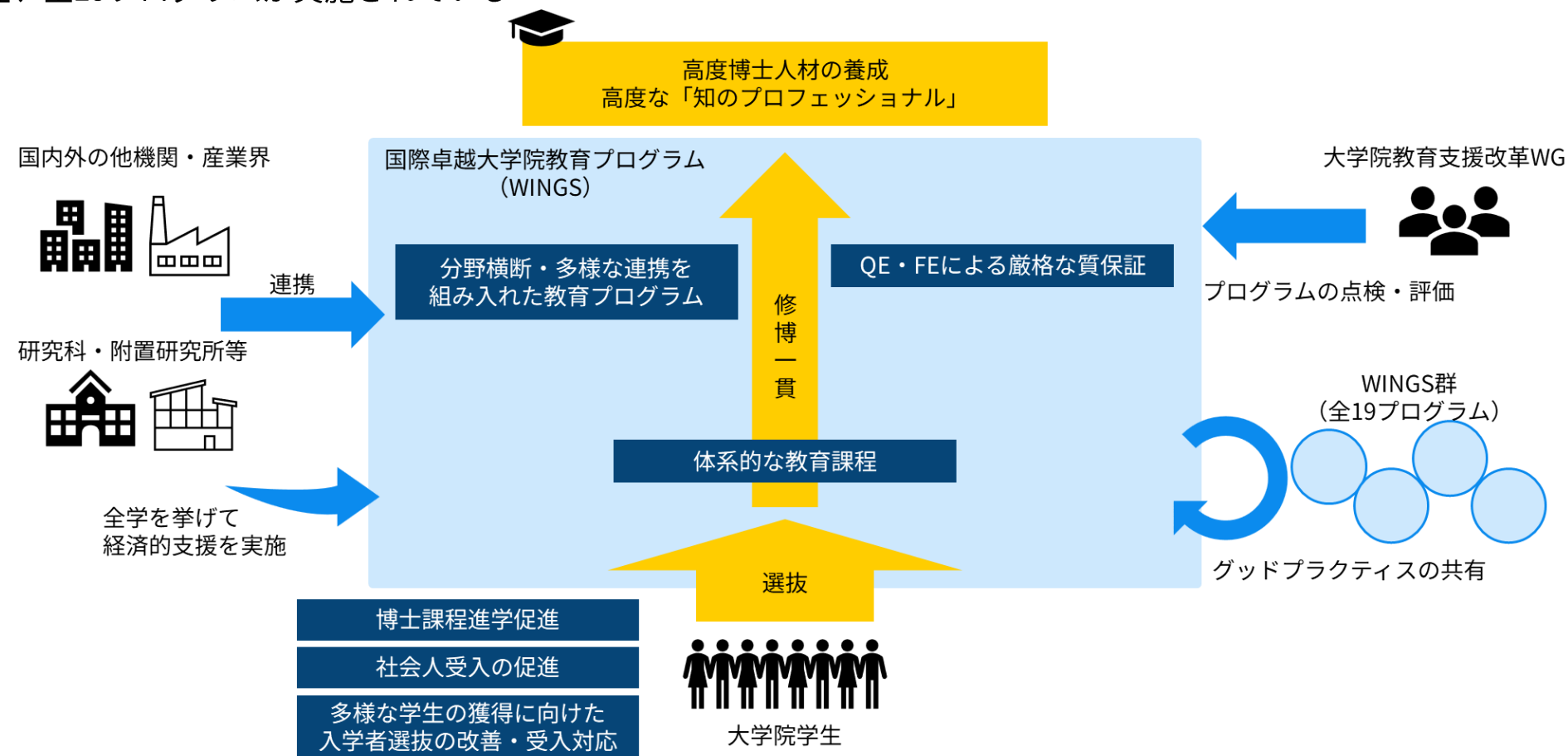


国際卓越大学院教育プログラム（WINGS — World-leading Innovative Graduate Study Program）

- 東京大学の最先端研究と多様な学術の中核として構築された、**修博一貫（又は学修博一貫）の大学院教育プログラム**
 - プログラム修了時には、学位記にプログラム修了が付記される
- 履修学生に対して、奨励金・卓越RA等により**月額18万円程度の経済的支援を実施**（※課程・プログラムにより異なる）
 - 本学独自の財源で実施しており、研究部局を含む全部局より本事業に対して拠出されている
- 2026年4月現在、全19プログラムが実施されている



【WINGSプログラム一覧】（2026.4時点）

1. 国際卓越大学院人文社会系研究科「次世代育成プログラム」
2. 教育研究創発国際卓越大学院プログラム
3. 先端ビジネスロー国際卓越大学院プログラム
4. 先端経済国際卓越大学院プログラム
5. グローバル・スタディーズ・イニシアティヴ国際卓越大学院
6. 先進基礎科学推進国際卓越大学院教育プログラム
7. グローバルサイエンス国際卓越大学院コース
8. 宇宙地球フロンティア国際卓越大学院プログラム
9. 変革を駆動する先端物理・数学プログラム
10. 「未来社会協創」国際卓越大学院
11. 統合物質・情報国際卓越大学院プログラム
12. 高齢社会総合研究国際卓越大学院プログラム
13. 環境調和農学国際卓越大学院教育プログラム
14. 生命科学技術国際卓越大学院プログラム
15. 数物フロンティア国際卓越大学院プログラム
16. プロアクティブ環境学国際卓越大学院プログラム
17. 知能社会国際卓越大学院プログラム
18. 量子・半導体科学技術国際卓越大学院プログラム
19. 社会デザインと実践のためのグローバルリーダーシップ養成国際卓越大学院プログラム

研究科等が連携して
設置・運営



人文社会系研究科
教育学研究科
法学政治学研究科
経済学研究科
総合文化研究科
理学系研究科
工学系研究科
農学生命科学研究科
医学系研究科
薬学系研究科
数理科学研究科
新領域創成科学研究科
情報理工学系研究科
情報学環・学際情報学府
公共政策大学院
附置研究所等

国際卓越大学院人文社会系研究科次世代育成プログラム

Advanced Program for Coming Creative Academics of Humanities and Sociology

コーディネーター：高橋 典幸

代表部局：人文社会系研究科

連携部局：新領域創成科学研究科、総合文化研究科、教育学研究科、医学系研究科、学際情報学府、社会科学研究所、東洋文化研究所、史料編纂所等

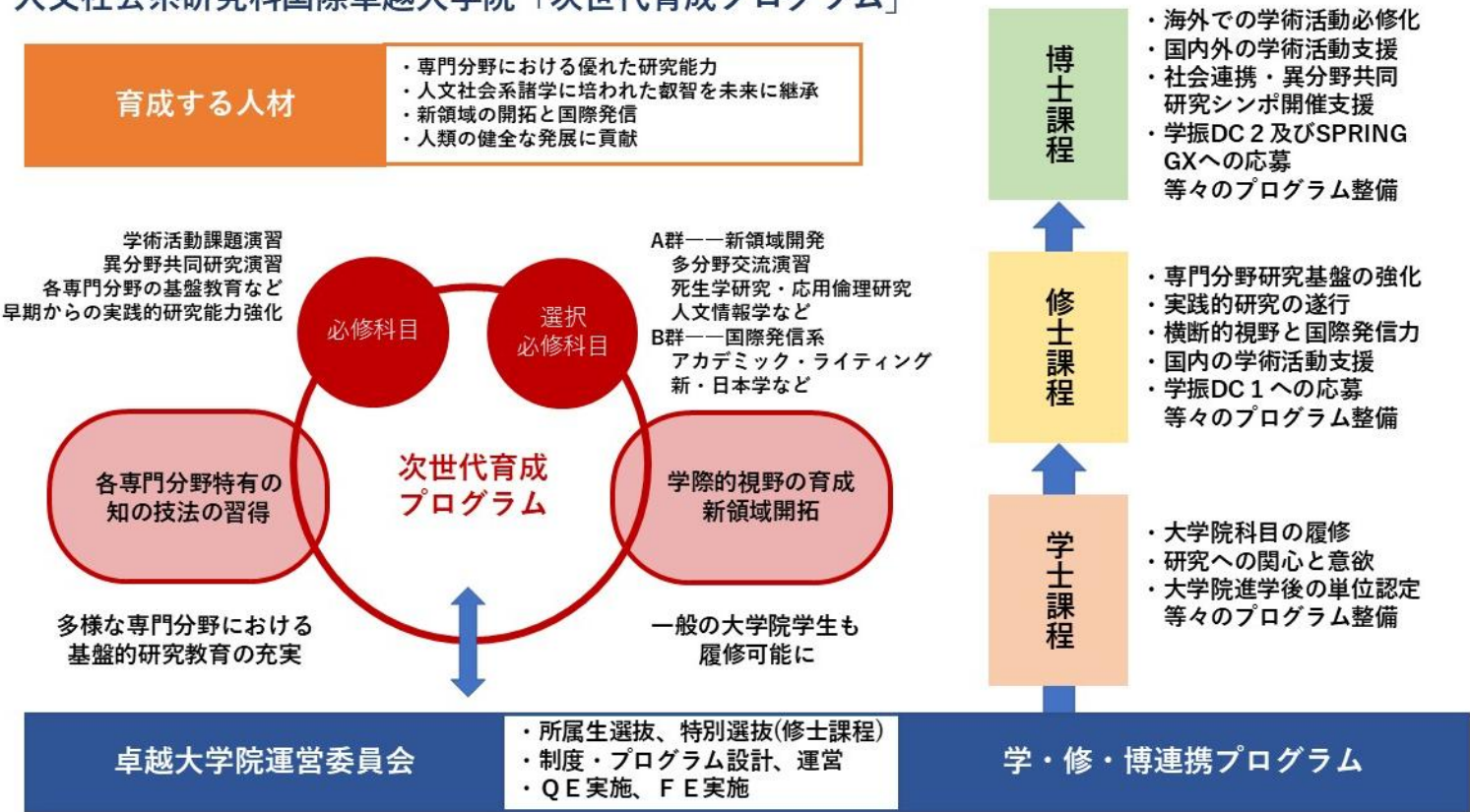
養成する人材像：

思想・歴史・言語・文学・心理・社会・文化等の視点の多様性を特質とする人社系の諸学で、伝統ある専門分野の優れた研究を深化させるとともに、分野を横断する視野に基づき、先端的な新領域開拓と国際発信の意欲と能力とを有する人材の育成を目的とする。

分野：

人文科学、心理学、社会科学

人文社会系研究科国際卓越大学院「次世代育成プログラム」



○教育研究の目的と特徴

人の人たる所以の根源を問う人文社会系の学問は、時空間を俯瞰する立場から今ここにいる人と社会の在り方を相対化し、その意味を批判的に検証し続ける多様な諸分野の総体であると考えられます。本プログラムは、かつてない速度で変化し複雑化する現代の世界に柔軟に対応しつつ、人類の叡智を未来に継承し、人文社会系諸学の健全な発展に貢献し得る知を創出する人材の育成を目的としています。

上記目的を達成するため、本プログラムの特徴は次のような二層構造におけるイノベーションを組織化したものとなっています。第1の基層の充実では、専門分野特有の知の技法を進化・発展させる教育プログラムとして「学術活動課題演習」や早期国際化の機会等を設け、学術を世界的レベルで維持・継承する基礎を強化することを目指します。第2の交流・展開層においては、情報化が進み研究領域の境界がゆるぐなかで求められている学際的な視野と、新領域開拓への意欲と対応力を獲得するため、哲学・史学・文学や心理・社会の諸学を横断する講義や演習を充実させ新設します。人文社会系では既存のひとつの分野を卓越として高度化させるのではなく、上記の二層において諸学の多様性そのものを資源とした卓越性が指向されています。

○グッドプラクティス（取組名称）

- ・学術活動課題演習
- ・異分野共同研究演習
- ・「学生交流に関する覚書」に基づき「特別交流学生」として取得した単位

教育研究創発国際卓越大学院プログラム (WINGS-CER)

World-leading INnovative Graduate Study for Creating Educational Research

コーディネーター：針生 悦子

代表部局：教育学研究科

連携部局：医学系研究科、工学系研究科、経済学研究科、農学生命科学研究科、総合文化研究科、情報理工学系研究科、学際情報学府、公共政策大学院、社会科学研究所、定量生命科学研究所、先端科学技術研究センター、大学総合教育研究センター、高大接続研究開発センター

養成する人材像：教育を対象とする先端的な調査研究および基礎的研究を実施し、過去と未来を検証・架橋しエビデンスと明確な理念に基づいて政策立案並びに分野融合型の教育関連の先導的な理論と実践を創発し、その成果を広く社会および海外に発信する「知のプロフェッショナル」の育成を目的とする。

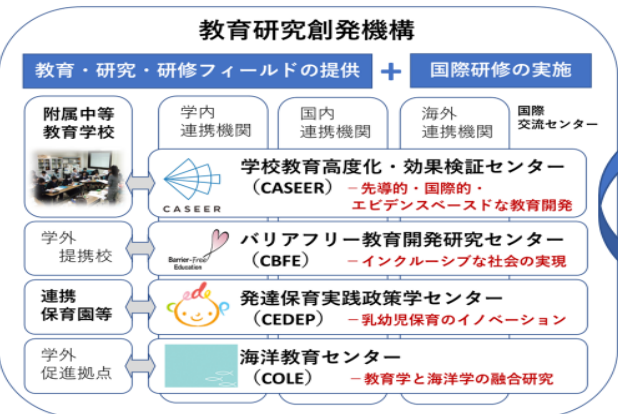
分野：人文科学、社会科学、心理学、健康衛生学、複合領域

教育研究創発国際卓越大学院 World-leading INnovative Graduate Study for Creating Educational Research (WINGS-CER)

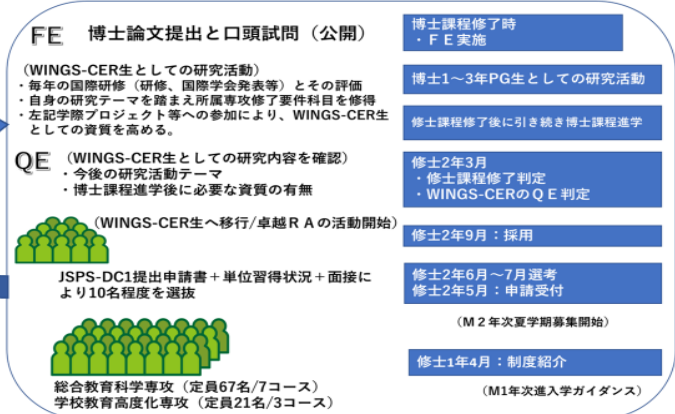
養成する人材像：過去と未来を検証・架橋しエビデンスと明確な理念に基づいて政策立案並びに分野融合型の教育関連の先導的な理論と実践を創発し、その成果を広く社会および海外に発信する「知のプロフェッショナル」
人材ニーズ：国内外の大学・研究所、国内外の行政機関やシンクタンク、NGO等に上記のような高度なプロフェッショナルを輩出



分野融合型の先導的教育研究とその国際発信



担い手となる知のプロフェッショナルの育成

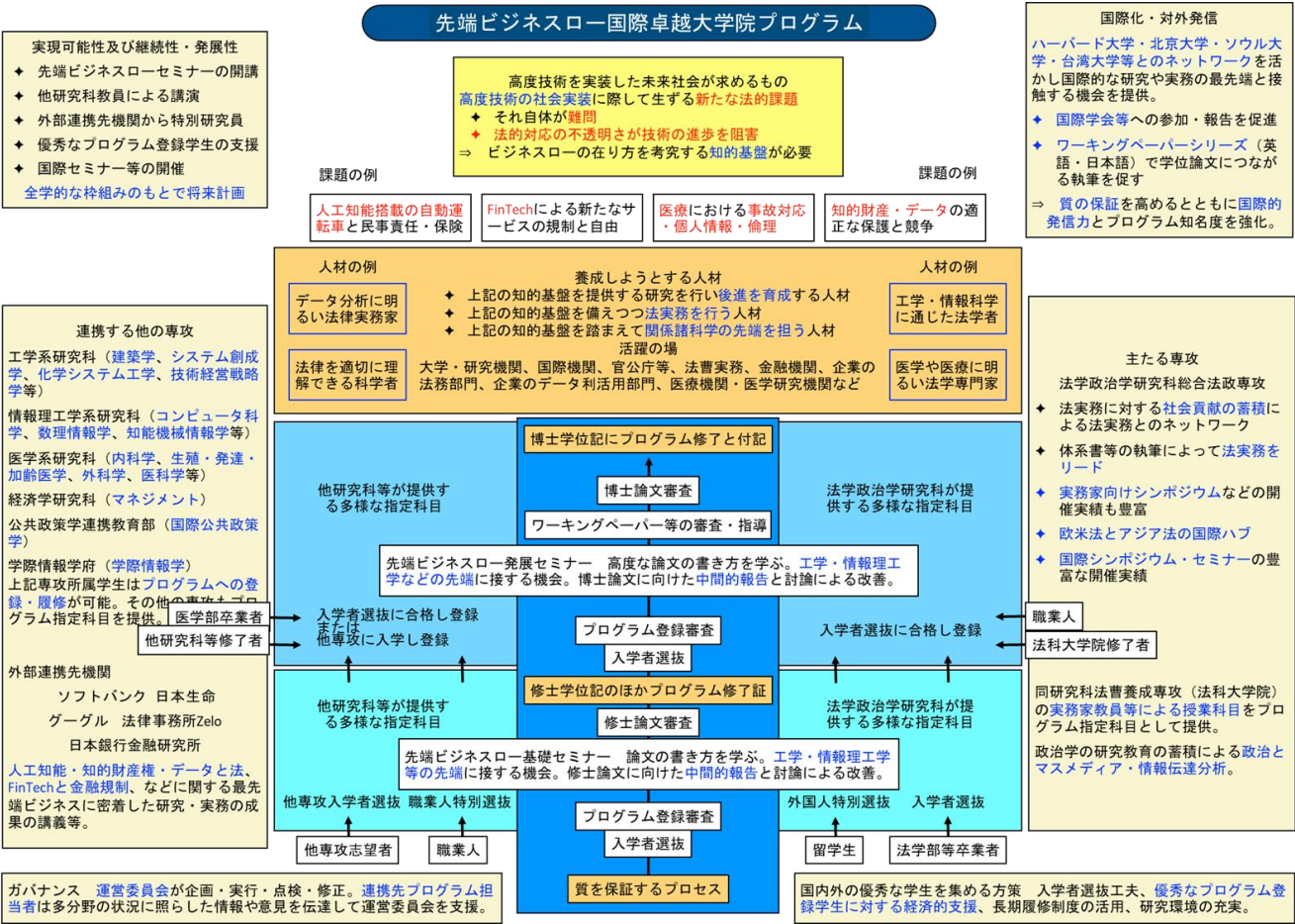


- 「国際研修」を必修とし、留学、外国でのフィールドワークやインターンシップ、研究成果の国際的発信を義務化
- 年度末報告会における異分野の教員・学生の交流と優秀発表賞の選出
- 論文指導委員会の設置による学位論文作成サポート：異分野・複数の教員による指導体制
- 研究科内の分野融合型4センター(CASEER, CBFE, CEDEP, COLE)による研究費支援（助成）と研究フィールドの提供
- 国内外の多様な連携機関・企業：ストックホルム大学、ユヴァスキュラ大学、カリフォルニア大学バークレー校、ペンシルベニア州立大学、国連教育科学文化機関・アジア太平洋教育総局（バンコク事務所）、ナンヤン工科大学国立教育学院、北京大学、香港教育大学教育・人間発達学部、木島平村立木島平小・中学校、自由の森学園中学・高等学校、吹田市、福知山市、伊達市、伊豆市、まちの保育園・こども園、富士通研究所、（株）ナチュラルスマイルジャパン、NPO法人Learning for All
- 所属生選抜、制度、プログラム設計、運営、QE、FEはWINGS-CER運営委員会が担当

代表部局：法学政治学研究科
連携部局：工学系研究科、情報理工学系研究科、医学系研究科、経済学研究科、公共政策学教育部、学際情報学府
養成する人材像：

分野：
社会科学

急速な変貌を遂げつつある広義のビジネスロー領域について、法理論と法実務両者の深い理解を基礎に、工学・医学等を含む関係諸科学の成果も踏まえつつ、文理の枠を超えた総合的視野から、新たな理論・実践の枠組みを構築できる研究者・高度専門職業人。



カリキュラムの特色

- 法学主導による「学際融合」の方法論を体系化
- 判例評釈から博士論文完成までを貫く一貫した教育スパイラル
- 「判民型」判例評釈の理論化と社会的発信
- リカレント教育としての完成度の高さ

2025年4月法学政治学研究科内に法政・治デザインセンターを設置し、本プログラムはその教育部門を担う形で恒常的組織へ移行。

代表部局：経済学研究科

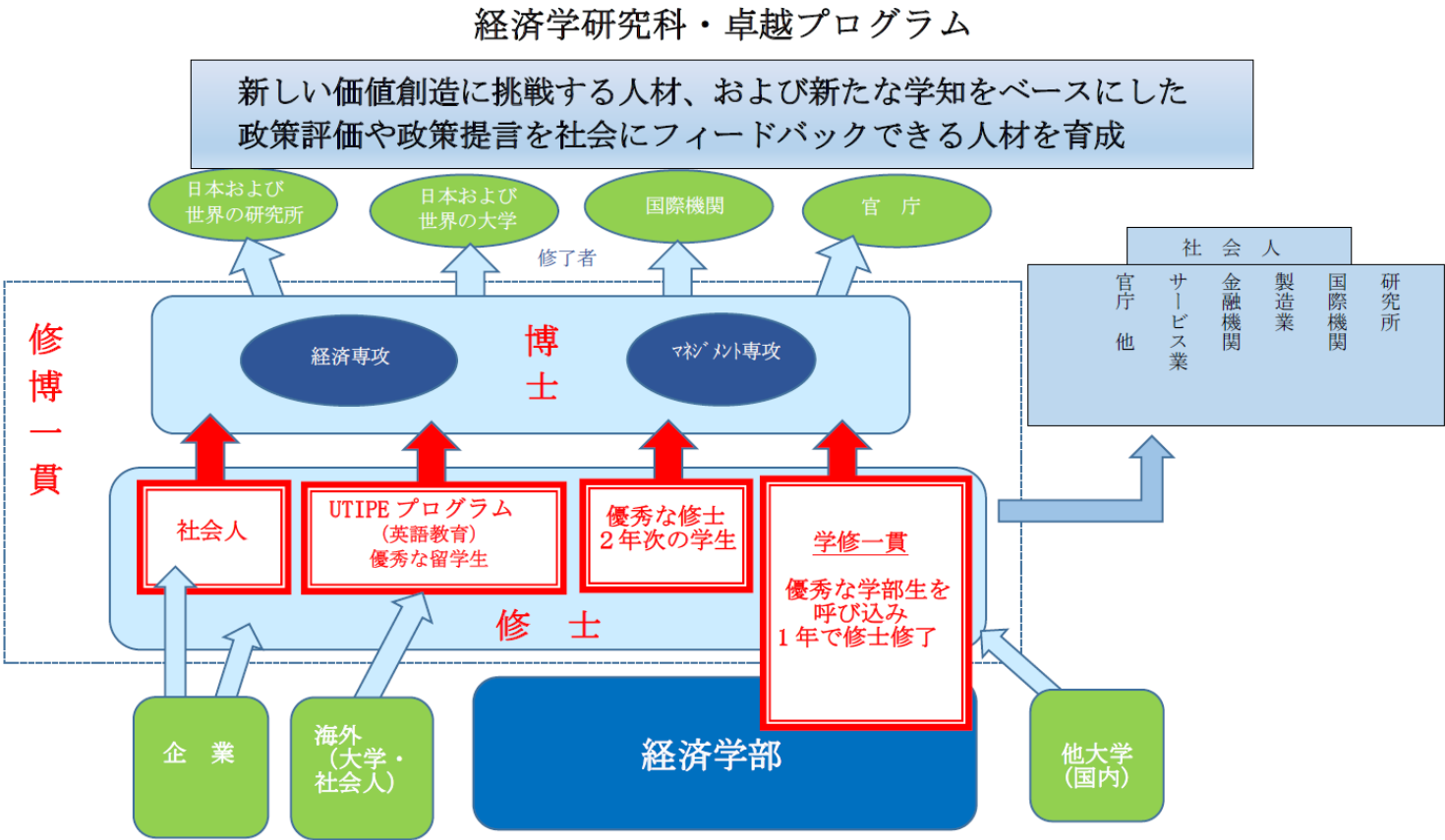
連携部局：法学政治学研究科，社会科学研究所

養成する人材像：

経済学・経営学および近接領域の視野から、ダイナミックに変貌する現代社会の要請に応え、理論的・実証的な研究を通じて新しい価値創造に挑戦する人材、および新たな学知をベースにした政策評価や政策提言を社会にフィードバックできる人材を育成する。

分野：

ビジネス・経営学・会計学、
経済学・計量経済学・金融

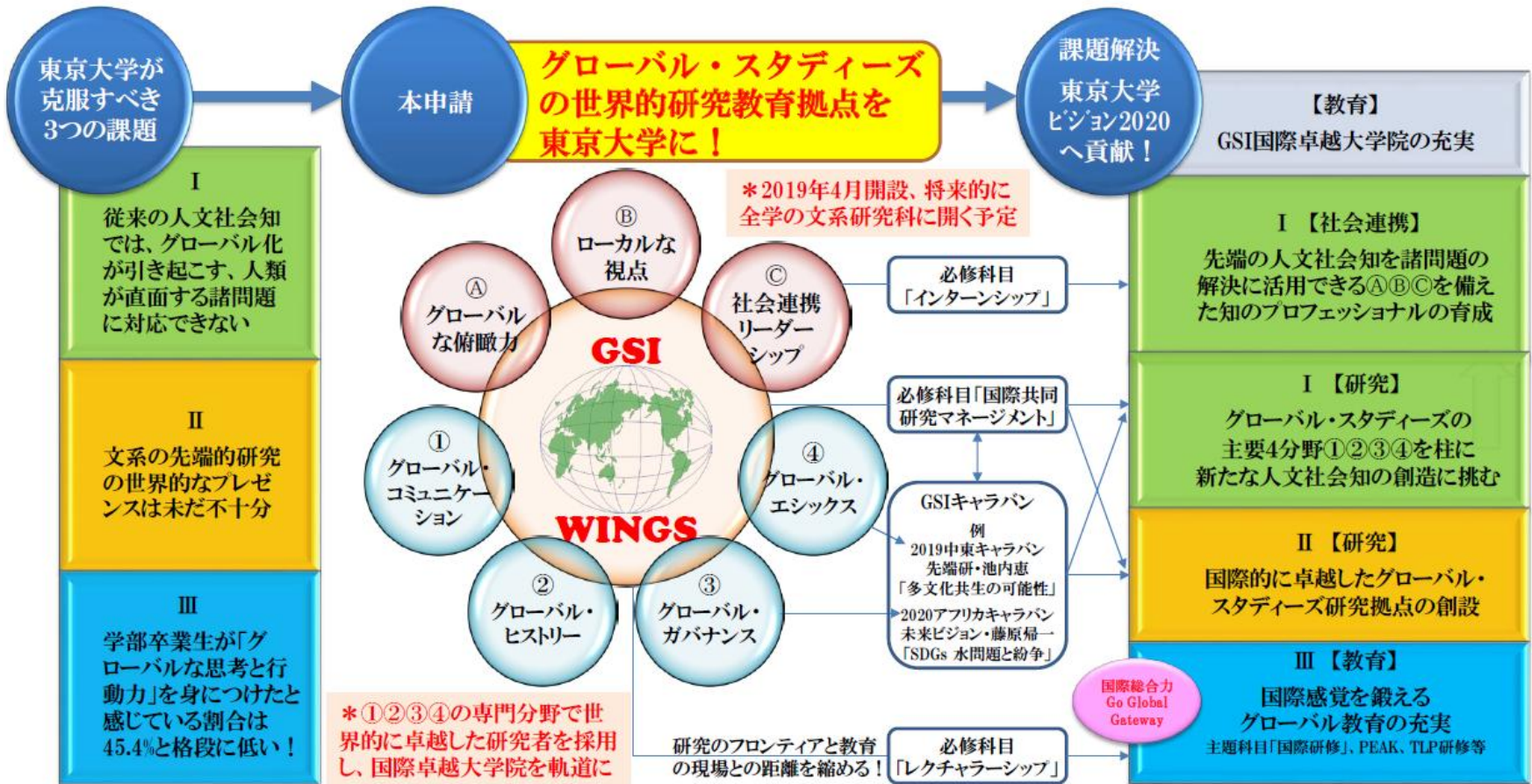


- 本プログラムの前半は、本学部の優秀な学生を対象に学部・修士課程一貫のプログラムを提供し、学部後期課程と大学院修士課程を3年間で修了する。後半の博士課程では、学修一貫から進学する学生と、留学生を含む従来型の修士課程の学生を合流させ、各分野で開設されているワークショップにより、国内外の研究者と切磋琢磨する場を用意するとともに、実践的な政策評価の教育プログラムを通じて訓練する。
- 大学院のワークショップを毎年度複数回開催している(2025年度は54回開催し、延べ1101名が参加した)。講師として国内外から研究者を招聘し、卓越プログラム生がトップレベルの研究に触れる機会を増やすとともに、学位論文の研究内容を発表し、多くの教員のアドバイスを得ながら研究の質を上げていく取組が成されている。
- 学部在学中に大学院レベルの授業科目の履修を推奨する学修一貫プログラムを博士課程教育に繋げて発展させる学修博一環の本プログラム教育課程を充実させるため、学部・大学院合併科目の充実を図っている。

代表部局：大学院総合文化研究科（言語情報科学専攻 超域文化科学専攻 地域文化研究専攻 国際社会科学専攻）
連携部局：大学院人文社会系研究科 大学院総合文化研究科広域科学専攻 進化認知科学研究センター 東洋文化研究所
社会科学研究所 人間の安全保障プログラム

分野：
人文科学、社会科学

養成する人材像：
人文社会科学の先端知を学際的・広域的に習得した上で、多言語・多文化への深い理解を有し、グローバル化により人類社会が直面する諸問題の解決に、社会の多様なセクターと協力しリーダーシップをもって取り組む意欲と能力をもつ「知のプロフェッショナル」



先進基礎科学推進国際卓越大学院教育プログラム（WINGS-ABC）

World-leading Innovative Graduate Study Program of Advanced Basic science Course

コーディネーター：福島 孝治

代表部局：総合文化研究科

連携部局：理学系研究科、数理科学研究科、生産技術研究所、先端科学技術研究センター

養成する人材像：

複数の基礎科学分野の専門性に立脚することで、俯瞰的視座から基礎科学の意義と長期的なあり方を鋭く見極め、基礎科学を牽引する高い研究能力と教育能力を併せもつ次世代型の卓越した人材を養成・輩出する。

分野： 計算機科学、数学、物理学・天文学、化学、材料科学、地球科学・惑星学、農学・生物学、生化学・遺伝学・分子生物学、神経科学、人文科学、複合領域

WINGS-ABC：基礎科学推進のための実践型教育課程と質保証

教育実践

出会う / broaden クロスメンター

異分野教員・博士学生との対話により、研究の見方と言葉を広げる。

外へ出る / explore 国内外短期滞在

異分野チームで研究機関・学会・現場を訪問し、学びを共有する。

伝える / communicate 前期課程との連携

未分化学生へのロールモデル提示。自分の研究の意義を語り直す。

教え合う / share skills 研究スキルのチュートリアル

計算・実験・解析などの要素技術を学生主体で共有し、留学生も支える。

批評し合う / peer review 異分野ピアレビュー

文書の往復を通じて、異分野への発信力と柔軟性を磨く。

WINGS-ABC
基礎科学を俯瞰し、
その魅力を伝え、
次世代を牽引する博士人材

出会う → 伝える → 外へ出る → 教え合う → 批評し合う

運営・質保証

WINGS-ABC
運営委員会
選抜と質保証を統括

M1

選抜

書類とヒアリングにより
コース生を選抜

M2

QE：修士終了時チェックポイント

履修状況の確認
＋キャリアプラン
＋異分野プロポーザル提出

D1

D2

D3

FE：最終試験

最終報告書提出
＋卓越コロキウム（オープン）
＋拡大委員会による口頭試問

到達目標：俯瞰性・発信力・主体性・協働性を備え、「基礎科学を牽引し、その魅力を伝達する」力を育てる

教育実践のグッドプラクティス

研究を「異分野・非専門家へ伝える」場を、課程内外に設計

前期課程との連携

駒場サイエンス倶楽部 大学院生編

大学院生が研究の現場を示し、研究の意義を語り直す。
前期課程学生には身近なロールモデルを提示。

スキルのチュートリアル

研究室・分野を越える相互学習

計算・実験・解析などの要素技術を共有。教える経験を通じて、非専門分野へ伝える力も磨く。

基礎科学推進の対話

特定課題に閉じない議論の場

個別の研究テーマではなく「基礎科学をどう推進するか」を軸に、分野を越えて議論を深める。

学振申請勉強会

How-toよりも、伝わる研究説明へ

申請技術だけでなく、研究をどの水準で説明すべきかという心構えを共有し、誤解をほどこ。

グローバルサイエンス国際卓越大学院コース (GSGC)

Global Science Graduate Course (GSGC)

コーディネーター：佃 達哉

代表部局：理学系研究科

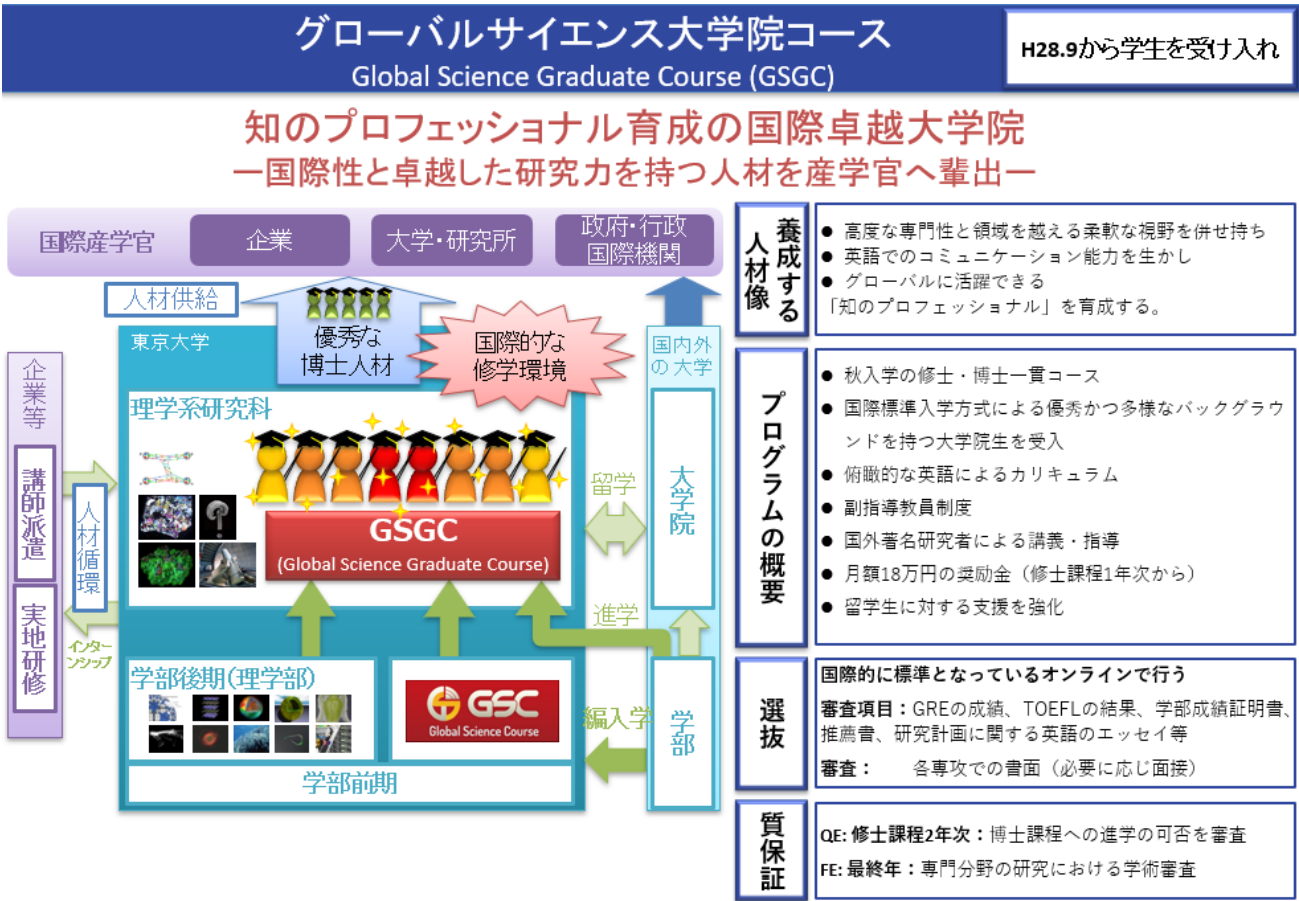
連携部局：工学系研究科

養成する人材像：

高度な専門性と領域を越える柔軟な視野を併せ持ち、英語でのコミュニケーション能力を生かし、世界のアカデミアから企業、行政機関にいたるまで幅広くグローバルに活躍できる、卓越性と国際性が高い「知のプロフェッショナル」を養成する。

分野：

物理・天文学、化学、工学、
地球科学・惑星学、農学・生
物科学



グッドプラクティス

- 出願は国際的に標準となっているオンラインで行い、応募者は、GREおよびTOEFLの成績、学部成績証明書、推薦書、研究計画に関する英語のエッセイ等を提出する。
- 秋入学の修士・博士一貫コースとして、修士1年次から月額18万円の奨励金を支給している。なお、奨励金のうち、3割は部局負担となっている。
- 本プログラムでの経済的支援は、コースワークの遂行度合に応じて実施しており、支援資金が公平かつ責任をもって活用される仕組みとしている。



宇宙地球フロンティア国際卓越大学院プログラム (IGPEES)

International Graduate Program for Excellence in Earth-Space Science (IGPEES)

コーディネーター：廣瀬 敬

代表部局：理学系研究科

連携部局：工学系研究科、新領域創成科学研究科、カブリ数物連携宇宙研究機構

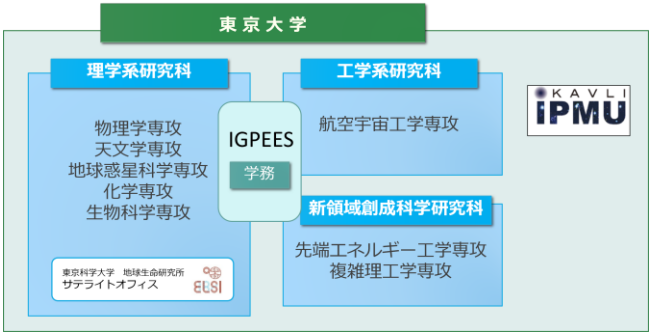
養成する人材像：

宇宙・地球科学に関連する専門分野における卓越した研究力に加え、異分野融合型の研究テーマを自ら発掘・実行し、学際研究や新分野を開拓する力、および世界で活躍できるコミュニケーション能力と国際性をもった人材を養成する。

分野：
地球科学・惑星学、物理・天文学、化学、工学、農学・生物科学

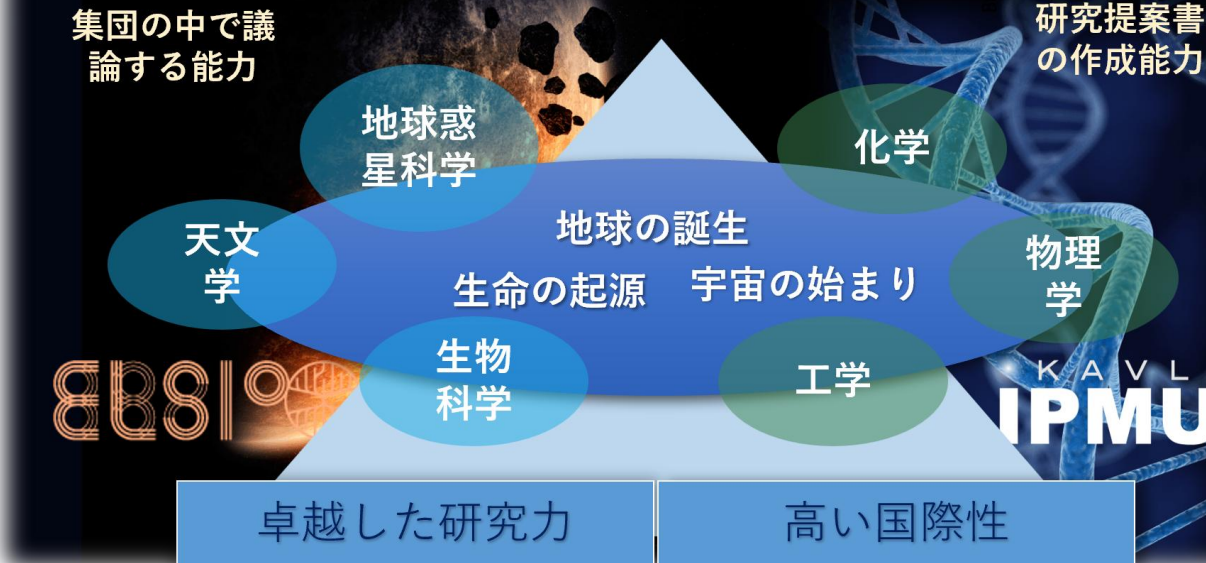
アストロバイオロジーをさらに発展させた、宇宙の始まりから生命の起源までをシームレスに扱う学際教育プログラムを提供する国際的な修博一貫プログラム

教育体制



プログラム概要

		は修了要件の項目。				
		M1	M2	D1	D2	D3
		コース1年次	コース2年次	コース3年次	コース4年次	コース5年次
質保証		選抜	QE			FE 学位審査
		コース採用			コース認定	コース修了
取組内容	コース生の募集	宇宙・地球科学における卓越した研究活動・副指導教員との定期的な面談				
		コースワーク（10単位）				エラントリー
		宇宙地球フロンティア特論（2単位）				
		宇宙地球フロンティア講義（6単位）				
		宇宙地球フロンティア特別演習（2単位以上）				
		宇宙地球フロンティア実地研修（学外活動）				
		経済的支援（卓越RA）				
主体的な研究活動の奨励（JSPS特別研究員への応募など）						



変革を駆動する先端物理・数学プログラム（FoPM）

Forefront Physics and Mathematics Program to Drive Transformation (FoPM)

コーディネーター：村山 斉

代表部局：理学系研究科

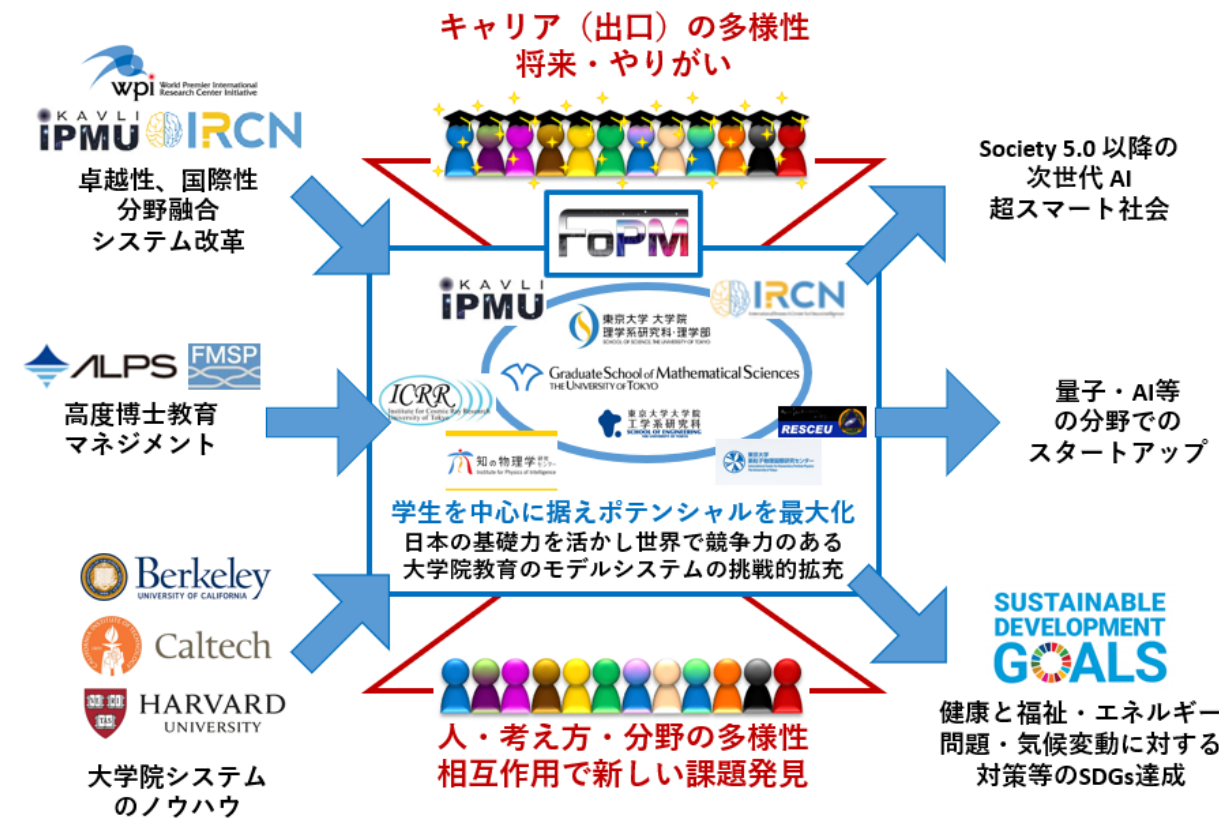
連携部局：工学系研究科、数理科学研究科、カブリ数物連携宇宙研究機構、ニューロインテリジェンス国際研究機構

養成する人材像：

本プログラムの目的は、先端物理・数学の教育を通じ、基本原理に基づく論理的な思考力と先入観のない柔軟な思考を身につけ、科学フロンティアの開拓に挑み、急激に変化する社会における課題解決に貢献する人材の育成にある。

分野：

数学、物理・天文学、化学、工学、地球科学・惑星学



	M1 コース1年次	M2 コース2年次	D1 コース3年次	D2 コース4年次	D3 コース5年次
質保証	PE	QE			FE
	Portfolio management				
分野の 多様性	副指導教員との定期的な面談				
	Introductory Courses & Contemporary Lecture Series				
	SDGs特論、Executive Program、社会数理先端科学				
	国外連携機関長期研修				
人の 多様性	Web-based Admission				
	ダイバーシティ・倫理教育				
相互 作用	研究室ローテーション（学内留学）				
	4PM Seminar				
出口の 多様性	Academic Writing and Presentation				
	AI・量子コンピューティング演習				
	社会課題実践演習、数物スタートアップ演習				
	国際キャリア研修				
支援 体制	多様なプログラム担当教員/英語力アップ/経済的支援				

「未来社会協創」国際卓越大学院 (WINGS CFS)

World-leading Innovative Graduate Study Program “Co-designing Future Society”

コーディネーター：沖 大幹

代表部局：工学系研究科

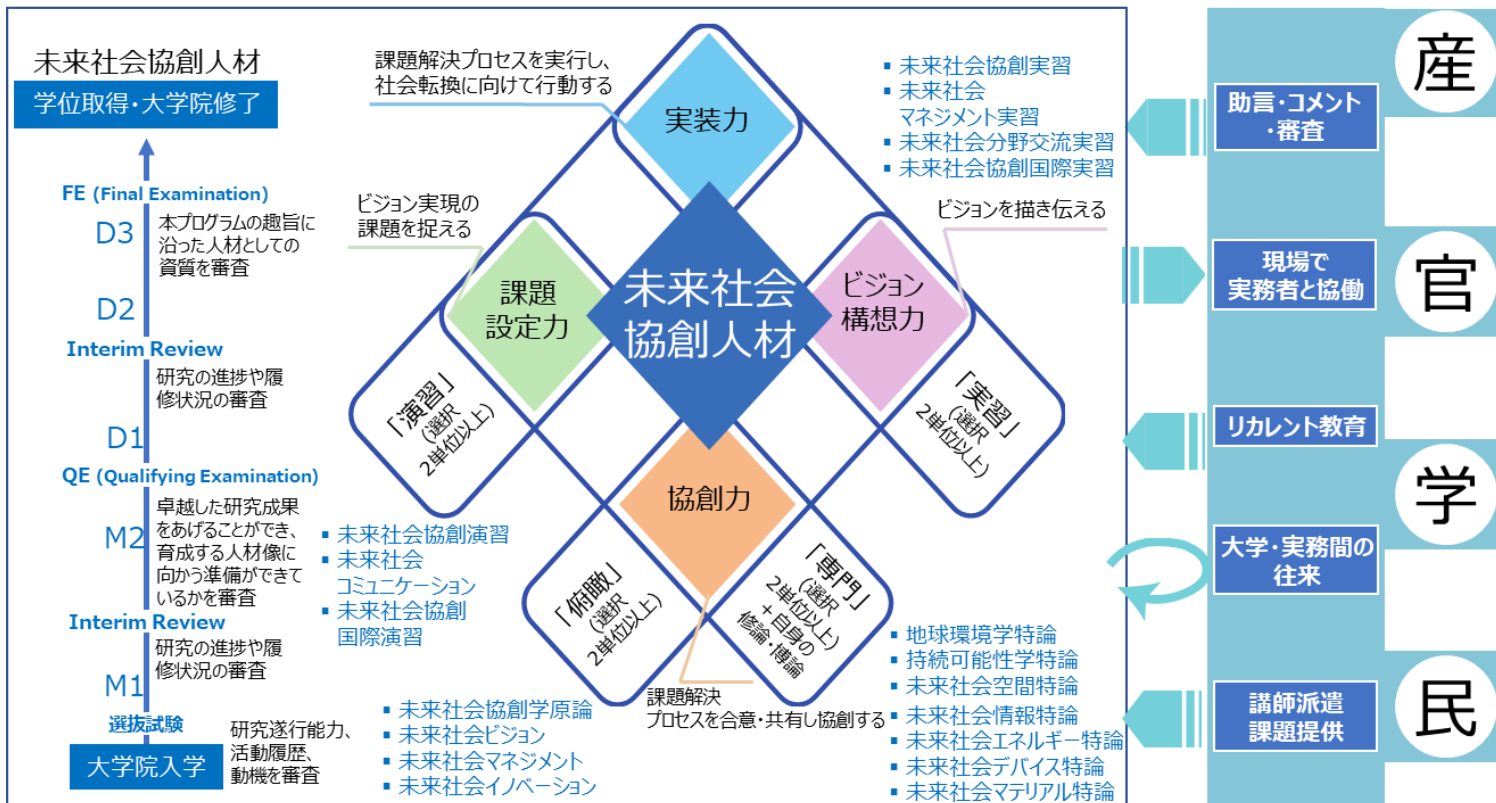
連携部局：人文社会系研究科、法学政治学研究科、理学系研究科、農学生命科学研究科、経済学研究科、総合文化研究科、教育学研究科
新領域創成科学研究科、情報理工学系研究科、情報学環・学際情報学府、公共政策学連携研究部、先端科学技術研究センター
未来ビジョン研究センター

養成する人材像：

SDGsを実現する未来社会空間の創生に向け、特定分野の専門性を有して社会実装、先進的な要素技術の開発、基盤研究の深耕を担い、産業界や地域・国など様々な専門家や実行主体を繋ぎ、イノベーションを実践して未来産業の創出に寄与する人材。

分野：

工学、材料科学、化学工学、エネルギー科学、計算機科学、環境科学、化学、物理・天文学、農学・生物科学、人文科学、社会科学、複合領域



社会とつながる力：トランスファブルスキルを涵養する講義群

★未来協創学特論 (集中講義、年2回開催)

・様々な分野のオムニバス講義や学際協創ワークショップ、グループワーク等
課題指向型教育プログラムにより文理協創人材を育成

★サマーキャンプ (集中講義、年1回開催、3泊4日の合宿形式)

・世界の大学より博士学生を招聘し、チームを組んで国際研究PJ*を立案
・リーダーシップ、チームワーク、英語交渉力を養成 *PJ:プロジェクト

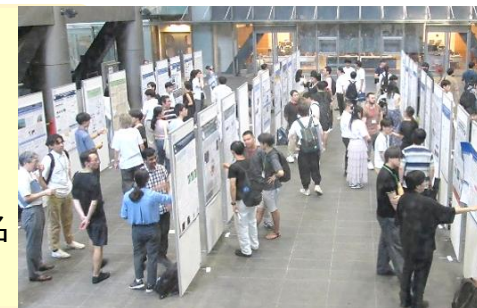
教育も含めた産学連携

★研究インターンシップ (通年集中講義、単位認定有)

・博士・修士を対象とする2～3か月の長期インターンシップ
・産学コンソーシアム・企業と提携し、広い技術分野のテーマを多数提供

学生ポスター発表会 (年2回開催)

・WINGS CFS所属生が一堂に介し
研究成果を披露する発表会
・発表者：修士・博士 約120名
・参加者：教員、企業含め約300名
・多彩な分野、最先端研究の発表



統合物質・情報国際卓越大学院教育プログラム (MERIT-WINGS)

World-leading Innovative Graduate Study Program for Materials Research, Information, and Technology

コーディネーター：齊藤 英治

代表部局：工学系研究科

連携部局：理学系研究科、新領域創成科学研究科、物性研究所、生産技術研究所、先端科学技術研究センター

養成する人材像：

人類社会における世界的課題を根本的に解決するために、物質科学を基盤とし、分野を越えた俯瞰力と柔軟性、先端情報技術を駆使する力、新たな知を生み出し社会価値創造に結びつける力、広い視野と高い倫理性を併せ持ち、将来の産業構造の中核となって社会の持続的発展に貢献する博士人材を育成する。

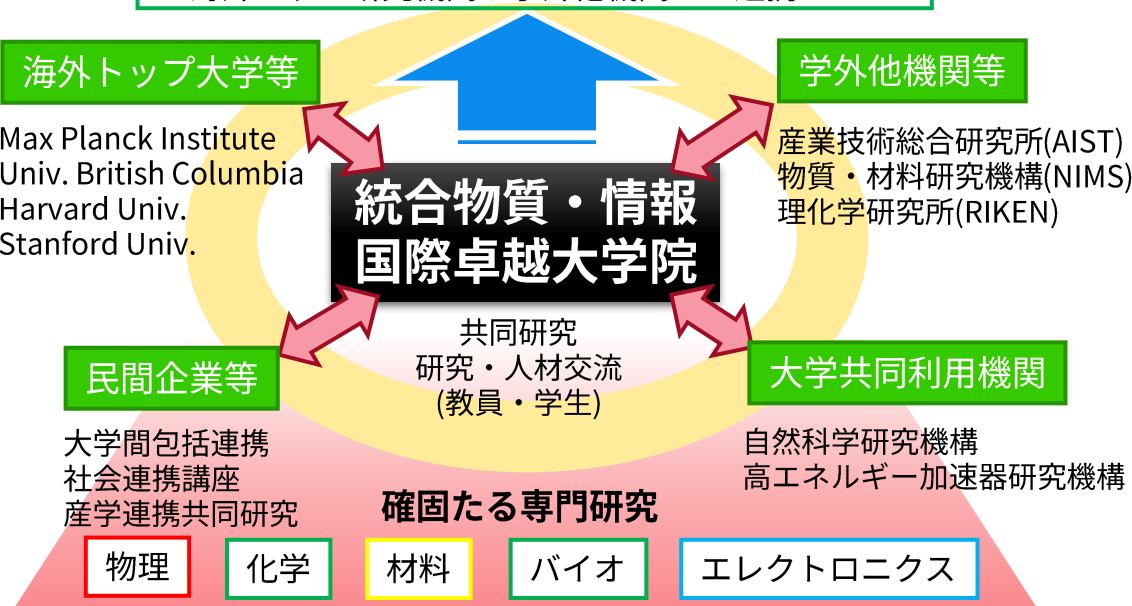
分野：

工学、物理・天文学、化学、化学工学、材料科学、エネルギー科学、環境科学、生化学・遺伝学・分子生物学

プログラムの枠組み

人材育成、研究力強化、新産業創出の好循環

- 構想力と機動力を兼ね備えた高度博士人材の育成
- 国際的に卓越した物質科学研究拠点の形成
- 海外トップ研究機関や学外他機関との連携



プログラムの特色

優秀な人材を結集

- ・ 志が高く優秀な学生を経済的に支援
- ・ 海外トップ機関・学外他機関等との研究・人事交流

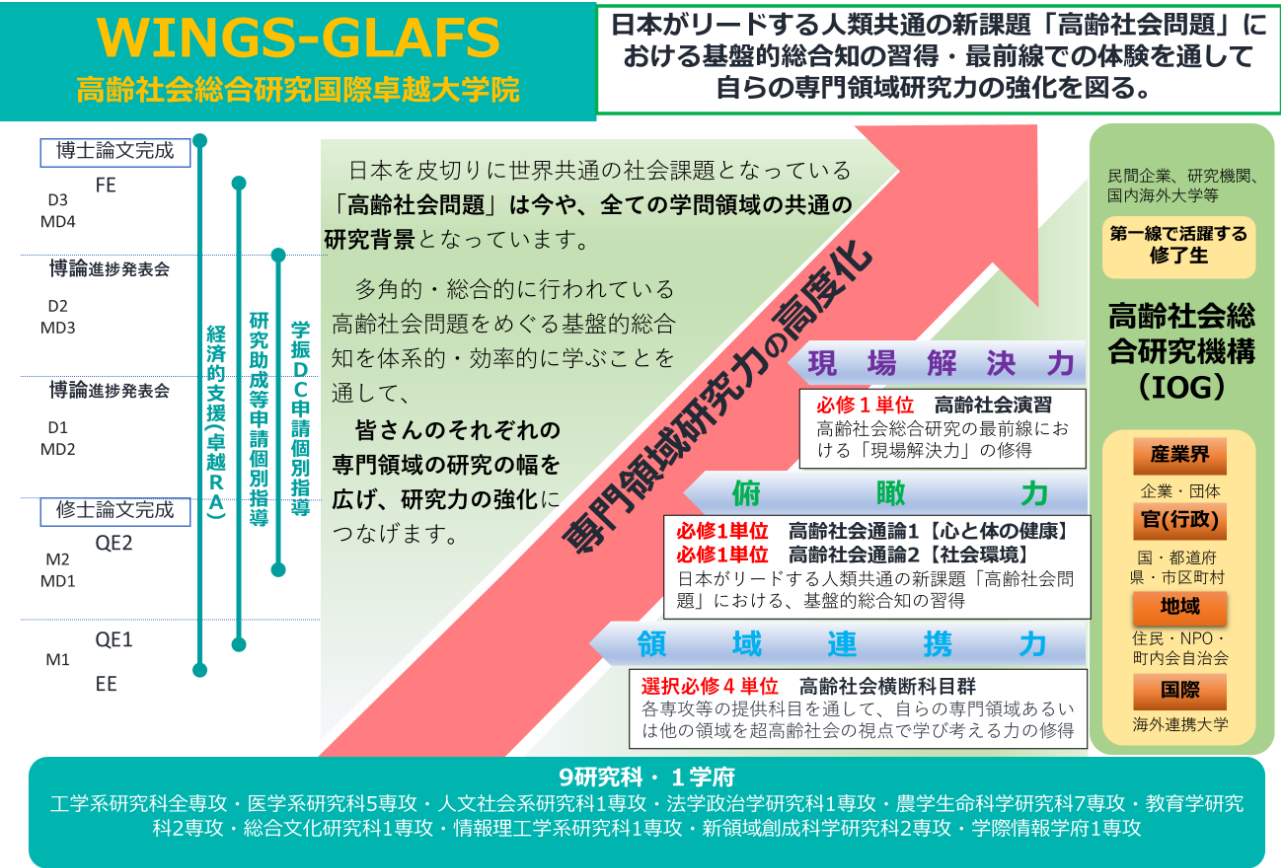
卓越した研究と教育による人材育成

- ・ 修士博士一貫の分野横断カリキュラム
- ・ コロキウム、俯瞰講義、エグゼクティブセミナー
- ・ トップ科学者や企業トップらによる講義
- ・ 最新の研究手法講義・演習
- ・ 萌芽的な専門研究の支援
- ・ 多様かつ高度な共同研究の促進 (学生間・連携先機関)
- ・ 海外大学/国内外研究機関への派遣
- ・ インターンシップ
- ・ 厳密な質保証 (QEとFE)

代表部局：工学系研究科、高齡社会総合研究機構
連携部局：工学系研究科、人文社会系研究科、教育学研究科、法学政治学研究科、総合文化研究科、農学生命科学研究科、医学系研究科、新領域創成科学研究科、情報理工学系研究科、学際情報学府

養成する人材像：
現在あらゆる学問領域のバックグラウンドとして世界共通に必要とされている超高齡社会をめぐる多領域の基盤的総合知の体系を効率よく修得することを通して、自らの専門領域の強みをさらに高め、さまざまな現場の課題解決に結びつける力をみにつけた人材の育成を目的とする。

分野：
複合領域学



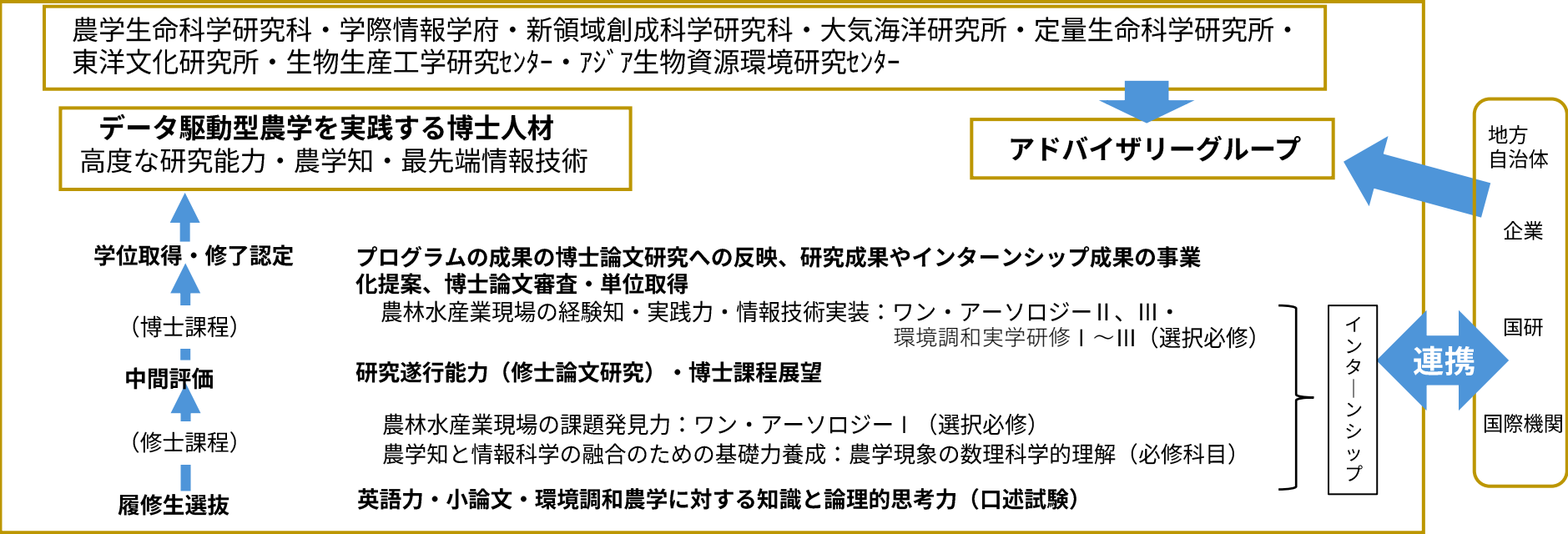
- 【カリキュラム】
- 通論（座学）：俯瞰力の修得（必修、2科目、2単位）
➢ 高齡社会の基礎を効率的に理解し【俯瞰力】を養う。
- 演習（フィールド）：現場解決力の修得（必修、1科目、1単位）
➢ 「産学連携の現場」「地域の現場」「国境を越えた現場」「各専門分野の現場」といった現場や研究フィールドでの課題解決に結びつける【現場解決力】を養う。
- 高齡社会横断科目群：領域連携力の修得（選択必修、4単位）
➢ 超高齡社会の視点で、自らの専門領域あるいは他の領域を、各専攻から提供される幅広い科目から選択して学び、【領域連携力】を養う。
- 多領域連携のための全体発表会（年2回）
➢ 履修生全員で、それぞれの実習で学んだことに加え、修士論文、博士論文研究の発表を行い、異分野の研究手法を学び合う場を提供。
- 【国際連携】
東大も参加するIARU(International Alliance of Research Universities)の分科会であるAging, Longevity, and Health（9か国11大学参加）を通じ、高齡社会・健康・長寿分野における国際的・分野横断型の連携を推進。海外トップクラス大学の学生・教員との交流、共同学習、研究発表等を通じて、世界最先端の知見や研究動向に触れる機会を提供。
- 【学振DC個別指導】
応募申請時における、教員指導・ピアレビューなどを通じて、研究計画の研鑽をサポート。

代表部局：農学生命科学研究科
連携部局：学際情報学府、新領域創成科学研究科、大気海洋研究所、定量生命科学研究所、東洋文化研究所、生物生産工学研究センター、アジア生物資源環境研究センター
養成する人材像：
農学知と最先端情報技術を備えた人材を育成する。さまざまな地域の農業現場の課題を顕在化し、食料・生物資源の生産・流通をデータ駆動型に変換して環境負荷を最小化し、持続可能な生物生産と地球環境を多様なステークホルダーと協創する。

分野：化学工学、材料科学、工学、環境科学、農学・生物科学、生化学・遺伝学・分子生物学、免疫学・微生物学、獣医学、経済学・計量経済学・金融

環境調和農学国際卓越大学院プログラム

農学知と最先端情報技術を備えた人材を育成する。
さまざまな地域の農林水産業現場の課題を顕在化し、食料・生物資源の生産・流通をデータ駆動型に変換して環境負荷を最小化し、持続可能な生物生産と地球環境を多様なステークホルダーと協創する。



海外における食料消費の変化に伴う健康及び環境影響の解明のための調査、灌漑・天水稲作の振興によるコメ増産支援やバイオベンチャー企業支援等、プログラム生が自らの研究成果を社会に還元する活動や、衛星リモートセンシングによる森林炭素クレジットプロジェクトの評価・検証の実務研修等を通して研究者としての視野の広がりにつながる活動も見られた。



現場で見えた課題



インドネシア

- ・鉄過剰障害の厳しい水田は栽培を諦める農家もいる
- ・多地点試験の重要性
- ・圃場試験の労力の大きさ



タンザニア

- ・効果の高い栽培管理法に絞って普及する必要性
- ・現地の人材育成
- ・効果的な普及方法
→良い技術だからといって簡単に受け入れられるわけではない

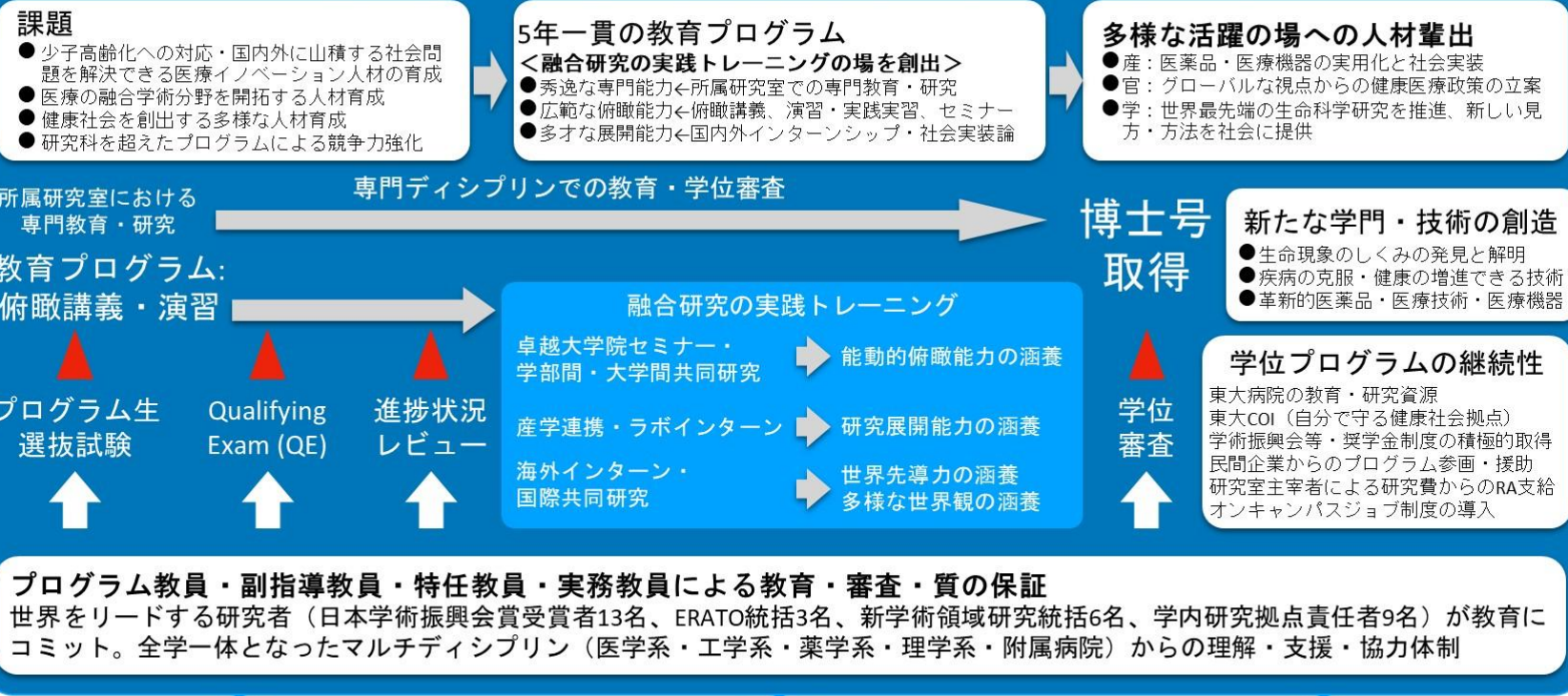
代表部局：医学系研究科

連携部局：工学系研究科、薬学系研究科、理学系研究科、医科学研究所、定量生命科学研究所

養成する人材像：新たな技術に基づく生命現象の「解明」と、解明された原理・理論に基づく「技術」の、それぞれを実践し密に高め合うことで、ヒトの健康に寄与する新しい学問分野を創造できる人材

分野：医学、健康衛生学、工学、薬理学・毒性学・薬剤学、生化学・遺伝学・分子生物学、免疫学・微生物学、神経科学

国際水準の競争力ある未来を切り拓く大学院教育プログラム



＜代表的カリキュラム＞

- ・俯瞰講義
生命科学技術分野の基礎と先端をプログラム教員から学び、異分野の知識を習得する
- ・実験実習
異分野研究室での実習に参加し、異分野の知識を体験的に習得する

＜グッドプラクティス例＞

- ・切磋琢磨
WINGS Journal Club（若手研究者が筆頭著者として有力誌に掲載した論文をプログラム生が解説し、当該研究者を交えてディスカッションする）
- ・新たな学び
全体会議（全プログラム生が研究発表を行い異分野交流とネットワーク形成を行う）
- ・オフキャンパス
海外研修支援（プログラム生の海外での活動に対して経済的支援を行う）

学内横断プロジェクト拠点との連携

東京大学WPI（ニューロインテリジェンス国際研究機構）
連携研究機構（ライフサイエンス連携研究教育拠点）
連携研究機構（臨床生命工学連携研究機構）
東京大学生命科学ネットワーク

学外との連携プロジェクト

若手研究者研究力強化のための国際交流支援事業
各教員が属する学会・協会を通じた優秀な大学院生の確保
国際学会等での研究報告・交流によるグローバル化

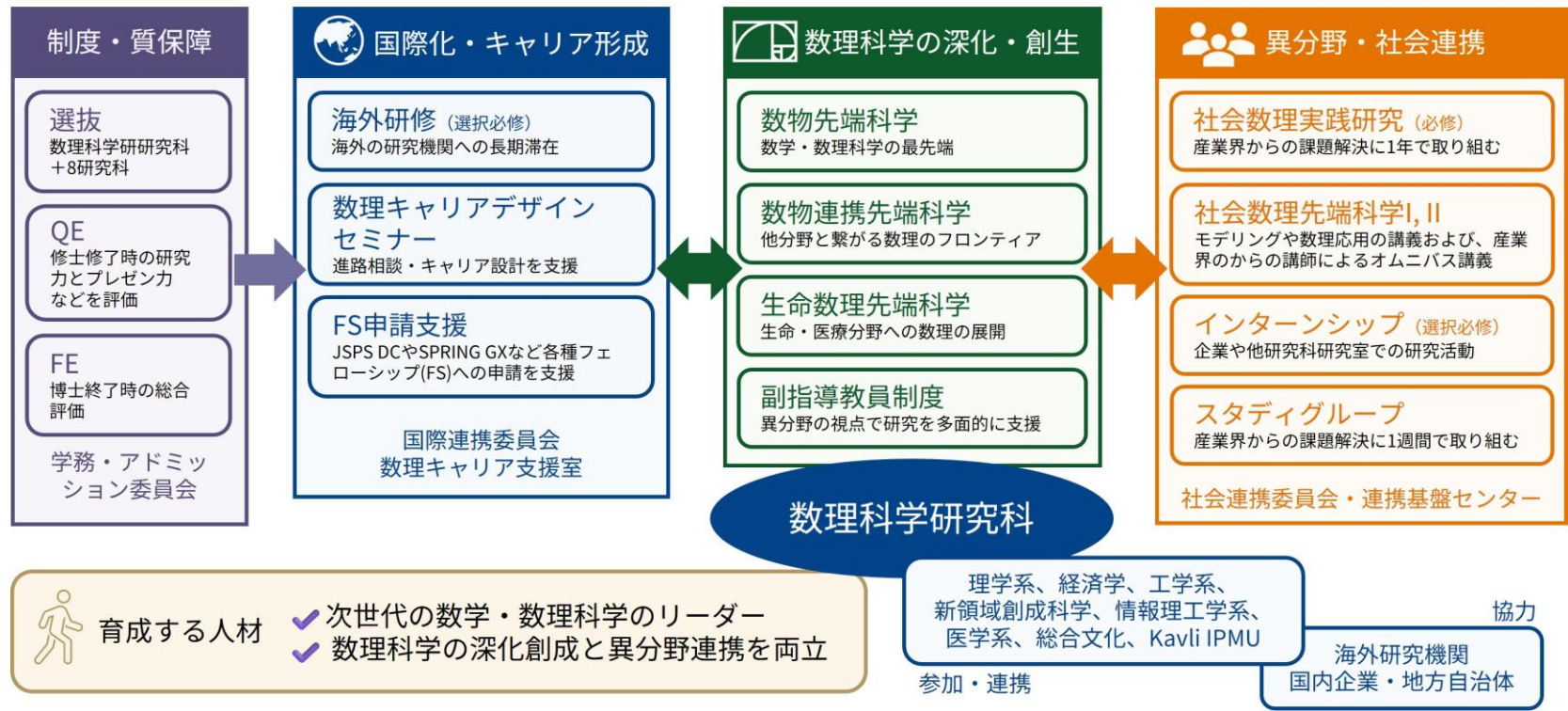
産業界・企業・社会との連携

オリンパス、キャノン、シスメックス、ジョンソン・エンド・ジョンソン、東京大学協創プラットフォーム開発など

代表部局：数理科学研究科
連携部局：理学系研究科、経済学研究科、新領域創成科学研究科、工学系研究科、情報理工学系研究科、医学系研究科、総合文化研究科、Kavli IPMU
養成する人材像：
諸科学や社会のイノベーションには、基盤となる数学理論の構築・刷新が鍵となる。数学を軸とし諸科学に広がりを持つ研究領域の開拓および数学の理論を深化、創成し異分野連携ができる次世代の数学・数理科学のリーダーの養成を目指す。

分野：
数学、計算機科学、物理・天文学、工学、地球科学・惑星学、医学、経済学・計量経済学・金融

数物フロンティア国際卓越大学院プログラム (WINGS-FMSP)



カリキュラムの特徴

- ・ 多彩なコースワーク
- ・ 産業界との協働研究プロジェクトである社会数理実践研究 (社会数理先端科学III) が必修
- ・ 海外渡航または企業・国内研究機関・他研究科研究室でのインターンシップのいずれかを必修
- ・ 数理科学連携基盤センターの支援で企業・研究所見学会、スタディグループを開催
- ・ 数理キャリア支援室のサポートでコース生のキャリア形成支援

質保障

- ・ 卓越RAの中間報告書等で研究進捗や活動状況を確認
- ・ QEポスター発表で (専門家向けに) 当該分野での寄与に加えて、研究の動機・位置付けを (非専門家向けに) 説明

財源確保

- ・ 数理科学研究科基金 (東京大学基金)
- ・ 社会連携講座との協働

部局経費の利用

- ・ 奨励金の増額 (2025年度採用生まで)
- ・ 国内学会参加のための旅費支援
- ・ 海外研究のための渡航費支援 (2025年度採用生まで)

プロアクティブ環境学国際卓越大学院プログラム (WINGS-PES)

World-leading Innovative Graduate Study Program in Proactive Environmental Studies

コーディネーター：山本 晃生

代表部局：新領域創成科学研究科

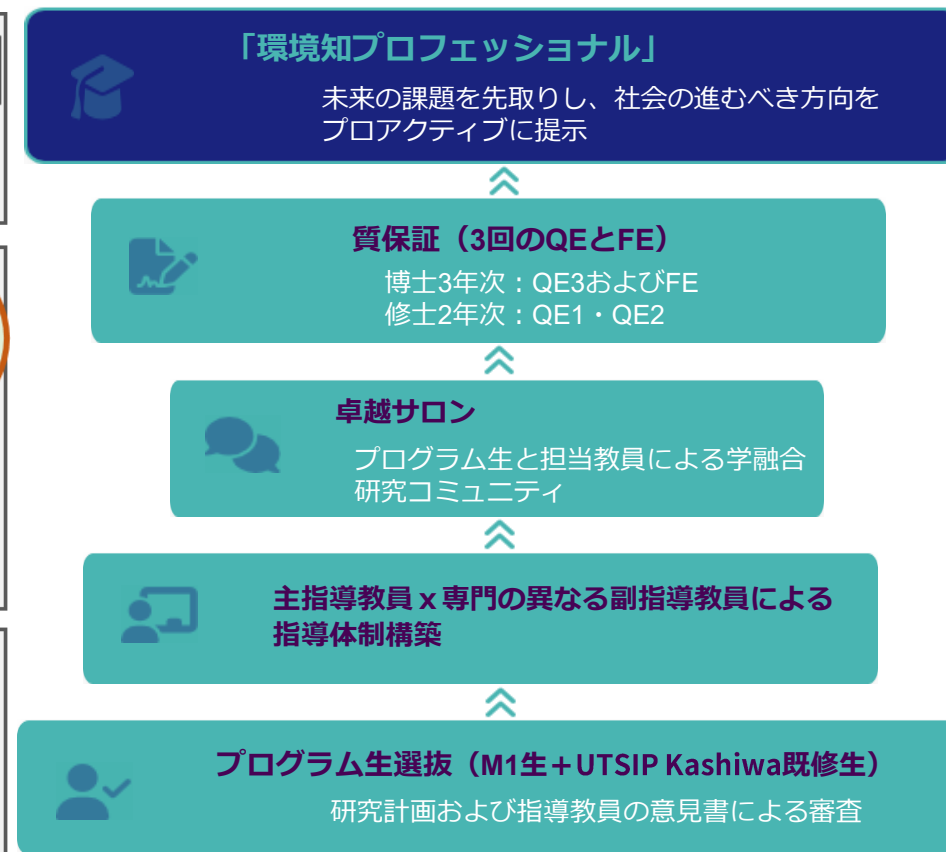
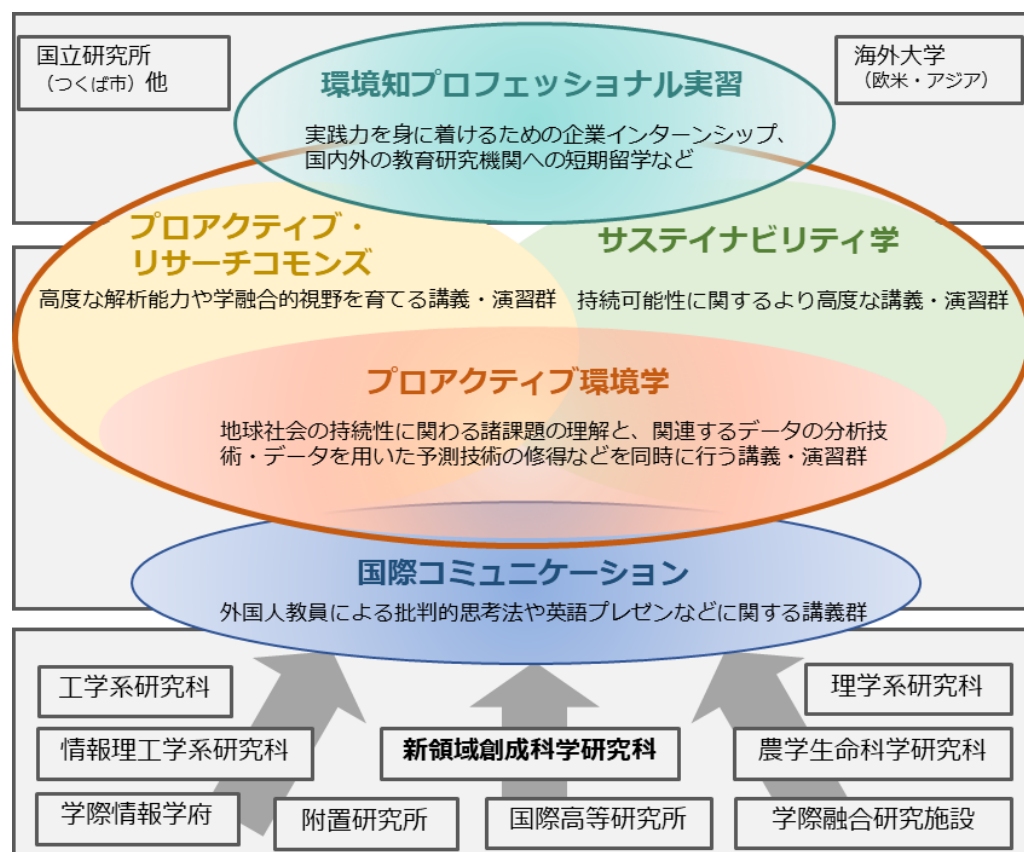
連携部局：工学系研究科、情報理工学系研究科、理学系研究科、農学生命科学研究科、学際情報学府、大気海洋研究所、生産技術研究所、医科学研究所、物性研究所、空間情報科学研究センター、東洋文化研究所、社会科学研究所、情報基盤センター、国際高等研究所（カブリ数物連携宇宙研究機構）、学際融合研究施設（未来ビジョン研究センター、環境安全研究センター）

養成する人材像：

高度なデータ解析と予測技術に基づくプロアクティブなアプローチを通じて、持続可能な地球社会の実現に向けた課題を先取りし、サステナビリティ学の理念に依りつつ複雑で多義的な問題に社会が進むべき方向を提示する「環境知のプロフェッショナル」

分野：

計算機科学、化学、工学、エネルギー科学、環境科学、地球科学・惑星学、農学・生物科学、生化学・遺伝学・分子生物学、免疫学・微生物学、複合領域



- プログラム生数
 - ・ 47名（2026年5月時点）
 - ・ 定員10名／年度
- カリキュラム・教育体系
 - ・ 必修科目は英語で提供
 - ・ 4つの科目群から構成
 - A. サステナビリティ学
 - B. プロアクティブ・リサーチコモンズ
 - C. 環境知プロフェッショナル実習
 - D. 国際コミュニケーション
- 卓越サロン
 - ・ プログラム生が主体となり運営
 - ・ 修了生と履修生、履修生とSPRING GX生の研究交流促進、つながりの場
 - ・ 自主勉強会の発足
- 優秀な学生獲得のために
 - ・ 海外の優秀な学部生が参加する研究インターンシッププログラム（UTSIP Kashiwa）の既修者のみが応募できる枠を設置

代表部局：情報理工学系研究科

連携部局：全教育部局

養成する人材像：

情報技術・理論により急速に社会構造・価値が変化し続ける現・次世代において、情報を深化させ新規分野を創出する人材、およびそれと並び立ち、最先端の情報によりまったく新しい社会価値を創造する人材を養成する。

分野：

計算機科学、数学、物理・天文学、化学、化学工学、材料科学、工学、エネルギー科学、環境科学、地球科学・惑星学、農学・生物科学、生化学・遺伝学・分子生物学、免疫学・微生物学、獣医学、医学、薬理学・毒性学・薬剤学、健康衛生学、看護学、歯科学、神経科学、人文科学、心理学、社会科学、ビジネス・経営学・会計学、経済学・計量経済学・金融、意思決定科学、複合領域

情報学を軸にあらゆる学問分野と連携

「〇〇学×情報学」
新分野を創出

俯瞰力、異分野を統合する能力、リーダーシップを備え
新しい学術分野を創造し**新しい社会価値**を創出する人材

知能社会創造プロジェクト＝博士研究

プロジェクト成果の学位論文への熟成
+ 共同研究費獲得のアドバイス

学生が**室長(PI)**となる共同研究

情報に基づき**新しい社会価値**を創造

創造性を誘発する新学位システム

- ・越境卓越大学院制度
新分野を主体的に模索・創成情報学を軸とし**全研究科**から成る分野横断・融合教育体制
- ・異分野インターンシップ
- ・情報学マイナー
「〇〇学×情報学」を具現

新教育制度と
教育生態系の
相乗効果

価値創造を促す社会一体型教育

- ・アイデアの社会実装支援
社会実装し社会（企業）から評価
- ・在学中ベンチャー
在学中の起業につながる活動を支援

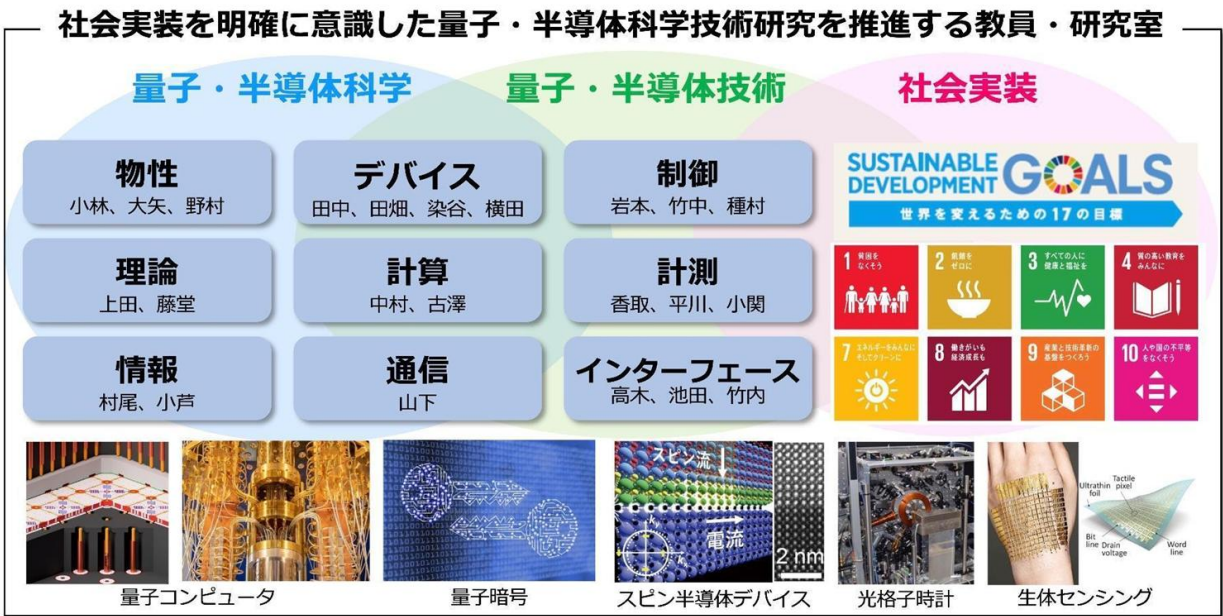
- ・講義
 - ・知能社会情報学
 - ・GCL特別講義
 - ・情報学講義
 - ・情報学演習
 - ・アントレプレナーシップ
- ・インターンシップ
 - ・企業・研究所・海外大学等
 - ・学内インターンシップ（異分野）
- ・研究交流イベント
 - ・月例ミーティング（オンライン）
 - ・研究ポスターセッション（対面）
- ・研究スキル向上プログラム
 - ・研究提案作成ワークショップ
 - ・エレベーターピッチ講習
- ・共同研究支援
 - ・学生自主企画
 - ・産学連携（UMP-JUST）



代表部局：工学系研究科研究科
連携部局：理学系研究科、総合文化研究科、新領域創成科学研究科
養成する人材像：

幅広い量子・半導体科学技術に精通し、それらの速やかな社会実装ができる卓越した能力を有するとともに、それを通じてSDGsやグローバル・コモンズに関連する課題の解決や新産業創出に寄与できる人材

分野：
工学、物理・天文学、化学



量子・半導体人材育成・キャリアパス向上に向けた取り組み

量子・半導体科学技術特別講義・セミナー	学生主体共同研究 英論文執筆指導	企業連携講義・実習・インターンシップ
量子・半導体科学技術実習・演習 IBM Q 実習	海外武者修行・共同研究支援 国際ワークショップ	博士OB・OG交流会 キャリアパス支援
研究室横断演習 量子科学技術輪講	海外交流サマープログラム 副指導教員体制	

カリキュラム
WINGS-QSTEPでは、量子科学・半導体科学を基盤として、基礎から応用、さらに社会実装までを視野に入れた横断的カリキュラムを提供している。量子物理、量子化学、量子生命科学、半導体工学に関する講義に加え、異分野履修が推奨されている点が特徴である。また、アントレプレナーシップ教育、工学コンピテンシー、研究インターンシップなども組み込まれており、研究力だけでなく実践力や社会実装能力の育成を重視している。

教育体系
教育体系としては、主指導教員に加えて異分野の副指導教員を配置する体制を採用しており、学生が多角的視点から研究を進められる仕組みとなっている。また、QSTEPセミナー、コロキウム、シンポジウムなどを通じて、研究交流や異分野コミュニケーション能力を養成している。さらに、Qualifying Examination (QE)やFinal Examination (FE)によって研究進捗と専門性を継続的に評価し、博士人材としての質保証を行っている。

グッドプラクティス
WINGS-QSTEPのグッドプラクティスとして、研究支援とキャリア支援を一体化した教育モデルが挙げられる。経済的支援に加えて、共同研究支援、海外学会渡航支援、企業・他研究室との交流機会を提供することで、学生の主体的研究活動を促進している。あわせて社会連携による活動資金の獲得も推進している。これにより、量子・半導体分野を俯瞰できる教育環境と、社会実装を意識した人材育成を両立している。

社会デザインと実践のためのグローバルリーダーシップ養成国際卓越大学院プログラム (WINGS-GSDM)

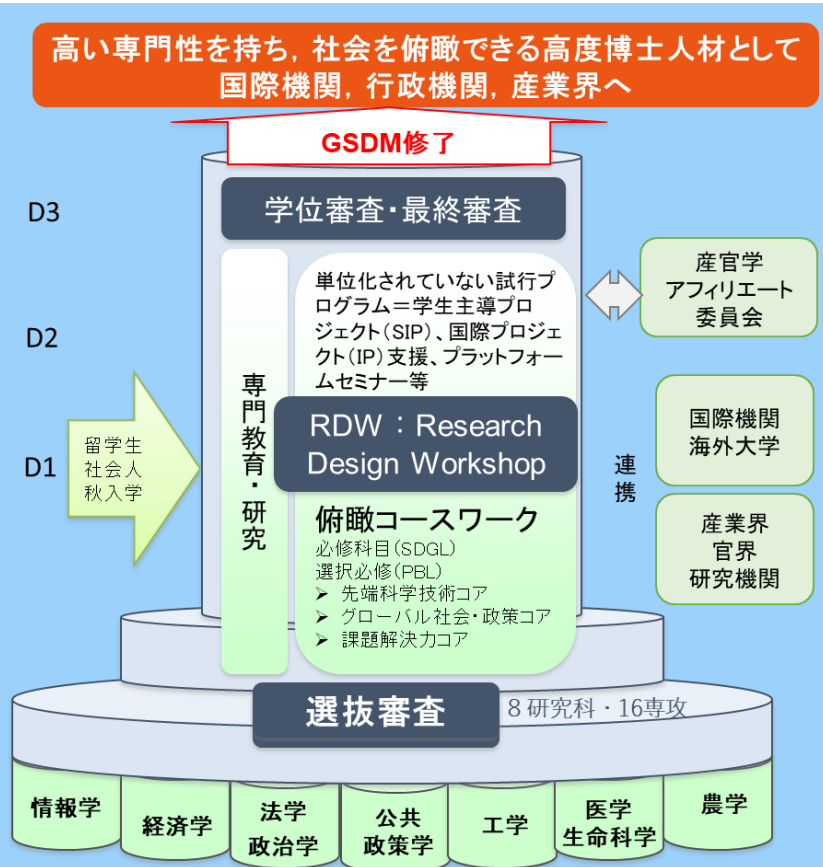
World-leading Innovative Graduate Study Program on Global Leadership for Social Design and Management

コーディネーター：城山英明

代表部局：大学院公共政策学研究所
連携部局：法学政治学研究科・総合法政専攻、経済学研究科・経済専攻、工学系研究科・社会基盤学専攻・機械工学専攻・精密工学専攻・航空宇宙工学専攻・電気系工学専攻・システム創成学専攻・化学システム工学専攻・技術経営戦略学専攻、医学系研究科・国際保健学専攻・社会医学専攻、農学生命科学研究科・農学国際専攻、新領域創成科学研究科・メディカル情報生命専攻、学際情報学府・学際情報学専攻

養成する人材像：
社会が直面するグローバルレベルの課題を的確かつ早期に捉え、科学技術と制度・政策など多様な専門分野の知識を統合して解決策をデザインするとともに、卓越したコミュニケーション能力や行動力によりその実施を担うことができる人材の育成を目的とする。

分野：
社会科学、工学、計算機科学、化学工学、エネルギー科学、経済学・計量経済学・金融、農学・生物科学、生化学・遺伝学・分子生物学、免疫学・微生物学、医学、健康衛生学、生化学・遺伝学・分子生物学、複合領域



- 選抜に際しては、研究計画とともに研究に関わる社会課題に関する認識や社会的活動についての報告も審査資料とする。
- 博士後期課程1年次終了時にはRDW (Research Design Workshop) を行う。RDWでは、専攻研究の進捗状況、高度博士人材としての社会的課題解決への構想、プログラム活動歴と身に付けた力を、様々な専門分野の教員のチームにより審査する。
- 博士後期課程2年次終了時にもIR (Interim Review) として進捗状況の確認・フィードバックを行う。
- 博士後期課程修了時には修了審査を行う。修了審査では、博士論文、社会課題や活動歴に関する資料等に基づく面接により資質能力を審査する。この審査には、様々な専門分野の教員に加えて、産官学アフィリエイト委員会委員等の外部メンバーも参加し、社会と連携する能力も評価する。これらの審査はすべて英語により行われ、様々な観点からの質疑への応答が求められる。専門的研究を専門外の者にわかりやすく説明する能力も求められる。